

令和4年度 第7回教育委員会定例会

日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和4年10月7日(火)	教育長 坂元 裕人	教育総務課長 野村 宏治
午後2時00分	教育委員 田原 正人	学校教育課長 今井 誠
↓		
午後4時00分	教育委員 葛迫 幸平	社会教育課長 港 耕作
第2研修室	教育委員 田之上 厚美	国体推進課長 米田 昭嗣
	教育委員 福里 由加	

会議要旨

- 1 開 会
定刻、定足数に達しており、令和4年度第7回教育委員会定例会を開会した。
- 2 令和4年度第6回定例会会議録の承認について承認
- 3 議 事
報告第24号 垂水市新型コロナウイルス感染症対応学校給食食材費臨時支援金支給要綱の制定について
- 4 その他
事務局より教育委員へ研修の案内
令和4年度鹿児島県市町村教育委員会連絡協議会研修会
10/27(木) 14:00～ センテラスホール 出席の有無を10/14までに事務局まで
- 5 委員並びに教育長及び課長報告
- 6 閉 会

議 決 事 項

件 名	提案理由	審議の状況	採決の次第
報告第24号 垂水市新型コロナウイルス感染症対応学校給食食材費臨時支援金支給要綱の制定について	垂水市新型コロナウイルス感染症対応学校給食食材費臨時支援金支給要綱の制定について、教育長の臨時代理により、要綱を制定したこと、及びその内容について報告するものである。	特記事項なし	

議 事 内 容 等

3 議 事	報告第24号 垂水市新型コロナウイルス感染症対応学校給食食材費臨時支援金支給要綱の制定について
教育総務課長	垂水市新型コロナウイルス感染症対応学校給食食材費臨時支援金支給要綱の制定について、教育長の臨時代理により要綱を制定したこと、及びその内容について説明。
教育長	ざっくり言うと、「令和4年度の給食費の値上げはしない。現在の給食費を維持しつつ、質の担保、安全・安心でおいしい給食を提供します。物価上昇分については、この要綱でもって、しっかりと市で補填します。」という主旨でいいか。また、この要綱は、時限要綱なので、令和4年度いっぱい効力を失うという理解でいいか。
教育総務課長	そのとおりである。
田原委員	この支援金で給食の値上げをしなくて済んでいることを、保護者へ周知してもいいと思うが。
教育総務課長	給食センター担当係長、栄養教諭と協議した上で、給食だより等、何らかの形で保護者へ周知する方法を検討します。
葛迫委員	来年の給食費は値上げの方向に向かっているのか。
教育総務課長	今年度のように国の補助金等の財源がなければ、当然、値上げをしないと運営できないと思う。例年3月に開催していた給食の運営協議会を前倒しで行って、学校長や保護者の給食についての意見の集約を行おうと考え

	<p>ている。値上げするとしても必要最小限に止めなければいけないと思っている。</p>
葛迫委員	<p>今の情勢の中では、何もかもが値上げになっているが、値上げをしないとすると、給食の質・量の低下が考えられるか。</p>
教育総務課長	<p>国からの補助がない場合は、最小限の値上げを行った上で不足する部分については、一般財源で負担することも検討しないといけない。</p>
葛迫委員	<p>原材料を落とすと質が低下する。そういった影響は全部子供たちに矛先が向いてしまう。それは怖いことである。やはり、お金をかけるところにはかけていかないと、国の補填があればいいが、ない場合はしっかり考えていかないといけない。折角の本市の安全・安心でおいしい給食が消えてしまうのは寂しいことである。</p>
教育長	<p>今のご意見は前向きに受け止めていいのではと思います。つまり、質を落とさずに、安全・安心でおいしい給食をこれからも続けていく。その為には、少々の値上げもやむを得ないというご意見。「子供たちの安全・安心が最優先だ！」というメッセージである。おそらく給食運営審議会でもそういった意見が出てくると思います。値上げに反対ではなくて、子供たちの安全・安心を担保できておいしい給食が今後も提供できるのだったら、少々の値上げはやむを得ないという方向でいくのではと思います。それは話し合いでよい方向に持っていけばいいと思います。全ては子供たちのためです。</p>
福里委員	
教育総務課長	<p>今度、栄養教諭が代わられたが、評判のよい先生のようなのである。今の給食費では実際に他に行ったら食べられない。どこにいても家にいても食べる物は食べるので、給食費は多少上がっても払わないといけないと思う。夏休みを考えれば、給食って有難いと感じる。今はコロナ禍で、ここ2、3年、「ふれあい給食」がなくなっていて、保護者が給食を食べる機会が減っている。実際に食べて、安全・安心でおいしい垂水の給食が、この値段で提供されているのだと分かったら値上げにも理解を示すのではないかと思います。</p>
4 その他	<p>事務局から教育委員へ研修の案内 「令和4年度鹿児島県市町村教育委員会連絡協議会研修会」のお知らせ 10/27（木）14:00～ センテラスホール 出席の有無を事務局まで</p>
5 委員並びに教育長及び課長報告	<p>委員並びに教育長及び課長報告に入る。</p>
田原委員	

「9月20日の柊原小学校・松ヶ崎小学校の学校訪問について」

柊原小学校は、校長先生が今年度で定年ということで、先生方や子供たちに対する思い入れが一段と深く、取組に力が入っているなど感じた。児童一人一人の学力の分析やその改善の取組の積み重ねによって、確実に成果を上げていると思った。タブレット等も低学年の子供たちもローマ字入力を使いこなしていて、自然に活用できているところに感心した。

また、コロナ禍とはいえ様々な面で地域と一体化した教育を進めることで、このことは、子供にも親にも地域の有り難さを実感できる教育が進められているのではないかと思う。研修の中で、小規模校で子供たち同志の関わりということを研修テーマに挙げておられたが、学校の中でも教育活動の中で充実していけばいいなと思うことであった。

松ヶ崎小学校では、私達との研修の中で、小規模校ゆえに教師と児童の距離感が近すぎるのではないかという問題が出された。子供たちに目がよく届く反面、子供が主体的にじっくり考え行動する場面が奪われていないか。つまり、これは教頭先生の言葉だが、「教師主導の活動が主になっているので、もっと子供が主語の授業を組み立てたい。」など、教師の本質に関わる議論がなされて、大変有意義な学校訪問であった。

葛迫委員

9月20日の柊原小学校での学校訪問の後、学校給食センターで給食の試食をしました。その日の献立は、麦ごはん・豚骨煮・キャベツの塩昆布和え・牛乳でした。私が子供の時は、麦ごはんが当たり前でした。それに加えて、さつまいもご飯もありました。少しも好きだったという思い出はありません。しかし、給食の麦ごはんを食べてみて、昔の麦ごはんのイメージがなく、美味しく食べられました。麦の量も少なかったのでしょうか。子供の頃の麦ごはんは、米より麦が多く使われていてとてもおいしいという食材ではなかったように思います。芋ごはんもそうです。母から、「麦は栄養価が高いの。」と言われながら食べた思い出があります。豚骨煮に関しては、骨付きの豚肉が調理されていましたが、よく煮込まれていることで骨と肉が剥がれやすく、また薄味で子供たちにも食べやすく調理されていました。キャベツの塩昆布和えもそうです。全ての料理が垂水市の小・中学校の児童・生徒の体の成長、心の成長に欠かせない学校給食だと思ったところです。

10月4日（火）に、桜島・錦江湾ジオパークスケッチコンクールの作品審査会が鹿児島市のマークメイザンで行われた。マークメイザンというところは、県の産業会館の裏にある鹿児島市が所有している綺麗なビルで、中に入ったら迷路みたいになっていて、何処に行ったらいいのか全然分からなかった。「桜島・錦江湾ジオパーク」は火山と人と自然を繋いだ生活圏、観光地、そしてイベントなど、楽しい場所をつくっていくことを目標としたエリアで、鹿児島市と始良市、垂水市をエリアとしたジオパークである。このようなジオパーク教育の一環として始まった今年のスケッチコンクールには、鹿児島市が33校で1,886点、始良市が11校で320点、垂水市が6校で46点の合計2,252点で昨年が2,709点だったので457点少ない作品数であった。垂水市に目を向けてみると、昨年が4校で17点だったので、

今年は大幅に増えました。垂水小や協和小の出品があったことがよい結果を生み、受賞者も前回より増えています。審査をしながら出品作品を見て感じたことは、やはり昨年同様に花火大会や海水浴といったような夏休みの風物詩、水族館での様子などの絵画が少ないなど、やはりコロナの影響がまだ続いているなど感じました。生活感のあるスケッチを早く見たいなどと審査をしながら思うことでした。

田之上委員

台風通過後の9月20日に学校訪問をさせて頂いた。午前中の柘原小学校では、着くなり子供たちが「おはようございます。」と元気な声で迎えてくれた。学校では個々に応じた学習支援とともに、地域と協力して色々な特色ある活動を行っており、「地域に頼り過ぎている部分も多い。」との校長先生の話であったが、収穫体験活動などは、子供たちにとってわくわくして楽しいことなので、地域に頼れるところは頼って、子供たちにわくわくする体験をたくさんさせてあげられるのは有難いことだと思うことである。また、おろごめ等の伝統的な行事が長く続いているのは、地域との連携が上手くいっているからだろうと思うことであった。

午後からは、松ヶ崎小学校を訪問させて頂いた。児童数が少ないこともあり、静かで落ち着いた学校である。学習では個々の能力を把握し、〈できた。分かった。〉ことを実感できるように努めているとのことであった。また、地域と連携した各種活動が行われており、学校の活動は、地域の活性化にもなっているのではないだろうか。お弁当の日の取組は、子供の能力や家庭の状況に応じて実施されており、あれこれと話しながら取り組む親子の会話が聞こえてきそうである。出来上がった写真も掲示されており、お友達同士の弁当を見合ったりするのも、励みになっていいのかなと思いました。昔、市P連の研修で発表を聞いたことがあるのですが、牛根中学校もやっていましたよね。それを小学校でやるとなると、5、6年生は多少できるかもしれないけど、1年生とかはすごく大変なことだと思うのであるが、できる範囲で家庭と連携しながらやっていくということは、やっぱり生活力を付けていくことに繋がるのかなと思うことでした。

両校とも少人数の学校であるということで、学習面とか、一人一人の能力を先生がすごく把握されていて、その子に応じた支援をしてくださっているなど感じました。また、少人数でありながらも、校内がいつ行っても綺麗です。展示物なども工夫されていて明るい感じになっていたのが印象的でした。

わくわくどきどき夢教室におじゃまさせていただいた。私は凄く楽しく聞かせて頂いたが、子供たちにはどうだったかと言うと、小学生にはやはり、少々難しかったのかなというのが実感としてあるが、子供たちの授業といえば、「今日の目当てはこれです。」ということで授業が始まり、まとめまでという一つのセンテンスの中での授業に慣れているので、あのような講演会形式のものは、子供たちにとってどうだったのかなと思うことであった。しかし、いろいろな人の話を聞くとか、音楽とか、色々な体験をすることで、「ああ、昔こんな話を聞いたことがあったなあ。」とか一人でも二人でも思い出してくれればいいのかなと思った。また、違う方向

福里委員

であっても、それがきっかけになることが、これからでてくるのかなと思った。そういうことで、これからも色々な分野のものを、子供たちにどんどん投げかけて欲しいと思うことでした。

10月2日に小学校の運動会がありました。今年も人数制限があって、午前中のみで開催となりました。制限がある中、その日は暑い日でしたが、皆一生懸命頑張っていました。各家庭2人までの人数制限でしたが、例年のことですが、守られていないところが多々見られました。去年までは受付に人がいて、受付で用紙を渡してという形でしたが、今年からはプログラムには、受付「無人」と書かれていた。用紙を受付に入れるだけだったので、それを見た中学生が、「分からないから行こう。」となったようで、親が二人来ているにも関わらず、中学生の兄弟もそこに加わっていた。他にも数人、中学生が来ている姿が見られた。毎年のことだが、「真面目にしている人が馬鹿をみる。」のは嫌だと思う。ルールが在る中で、そのルールを守れない子もいて残念であった。そんな時に、息子のクラスの週報にこのような事が書いてあった。

〈「当たり前のことを当たり前でできる生徒」であってほしい〉

「みんなで協力をして2学期の学校生活を送る一方、勝手な行動をする人が数名いて、個々に声をかけて注意することが多くなりました。よくない行動をしている人には改めるように話をしています。（友達に余計な発言をする／先生が話をするときにおしゃべりを始める／授業中思いついたことを勝手に話し始める／練り消しゴムで授業中に手遊びをする／授業中タブレットでゲームをする／手洗い場の石けんで遊ぶ／掃除を真面目にしない／など）クラスの生徒の中には注意してくれる生徒もいますし、その人たちの授業の様子が落ち着くのを待っていている生徒がほとんどです。みんなは一人のために、一人はみんなのために、『当たり前のことを当たり前でできる生徒』であってほしいと期待をしています。」と担任の先生が書かれていた。息子が言うには、最近、授業中にタブレットでゲームをする生徒もいるみたいで、そのことを聞いた先生が、帰りの会で、ゲームをした人を立たせたが、10人中8人しか立たなかったらしい。

先生が言われるように、しっかりルールを守って当たり前が当たり前でできる人に息子にはなって欲しいと思うことでした。

9月25日に幼稚園の運動会がありました。19日実施予定が台風で延期になって、キララドームの予約が取れなかったので、市の体育館を利用させて頂いた。色々な放送設備も揃っており、ましてはクーラーも効いていたので、体育館っていいなと思いました。クーラー代も今年はかからないと体育館の人に言われたが、電気代がキララドームに比べてすごく高かったのでびっくりした。参加された保護者からも大好評でした。友達のお母さんに、「江ノ島は運動会を体育館でしたんだってね。すごく涼しかったんでしょう。」と言われ、保護者同士の情報伝達スピードの早さに感心しました。来年はクーラー代も結構かかるだろうと言われましたが、その日は凄く暑い日で、外に出たらこんなに暑かったんだと思い、体育館での運動会はありだなと思いました。

わくわくどきどき夢教室には、幼稚園の仕事の都合で参加できなかった。「どうだった？」と娘に聞いてみたら、「質問したかったのに、できなかった。あててくれなかった。」という返事でした。「何を質問したかったの？」と聞いたら、その内容は忘れましたが、娘はそんなことを疑問に思ったんだと感心しました。講演の内容はさっぱり分かっていないと思いますが、ただ一言「楽しかったよ。」と言ってくれました。今度は息子に聞いてみると、やっぱり難しかったという返事が返ってきた。副担任から「分かったね。」と聞かれ、「全然、何を言っているか分からなかった。」と答えたらしい。でも息子が「夢を持って努力すれば叶うんだね。」と言っていたので、凄く大事なことを感じてくれたと思うと嬉しくなった。本物の人から話を聞くことで、内容は難しくても得るものはあるんだなあとと思うことでした。

教育長

昨日届いたほかほかの熱い嬉しいニュースをご紹介します。全国ICT教育首長協議会というところから、今村指導主事の方に、「鹿児島県の垂水市が、日本ICT教育アワードにおいて、全国ICT教育首長協議会会長賞をめでたく受賞されました。」という朗報が届きました。ちなみに全国でいうと、文科大臣賞、総務大臣賞、経済産業大臣賞、次の賞があって、5番目なんです。上から5番目にランクする賞を市長が頂かれました。11月17日に表彰式ということです。いろいろ調べてみると、勿論応募はしましたけど、我々はこの協議会に加入していません。普通は協議会に加入しているメンバーの中から手を挙げるんです。鹿児島県でいうと、出水市、肝付町、徳之島町の3団体が加入しているんですが、勿論応募しているかどうか分かりませんが、この自治体はまだ表彰されていません。鹿児島県初ということになります。またこれから色々なところでひっぱりだこです。実はこれまでも、鹿児島県でもトップクラス、トップクラスと言ってきましたが、一方からすれば本当だろうかというのもあったと思います。それが客観的に評価されたということは、うれしいことです。私の感覚からすると少し時間的に先を行ったなあと、もう少し時間をかけてじっくりと思っていたんですが、相手の方から近寄ってきました。この賞をくれた協議会も、どこにでもくれるはずがない訳で、色々なホームページとか我々が出している資料等を絶対に精査したと思います。そして、この賞に値する自治体なのかどうか精査したうえでくださった賞だと思っています。そして一年間また新たに実践を積み上げていくと、次はもう大臣賞になってくるんです。だからあくまでも過程です。途中です。途中を評価して頂いた。次はまだ更にいい賞がありますよということをメールでいただいたんです。そういう意味では目標を持たせてもらって頑張り甲斐がありますね。本当にもっともっと質を上げていかないといけないと思うことでした。全ては子供のためにです。最初は学園都市で有名な茨城県のつくば市が文科大臣賞を取っているんです。今回の1番は東京都の渋谷区。ここが文科大臣賞を取っている。このように、正当な評価をしてくれている団体なので、その中に垂水市が入ったということは、間違いなく客観的に高評価してもらったと思います。今後、中身を充実させていかないといけない

など新たな目標を与えて頂いたと思います。頑張らないといけないなど改めて思うことでした。保護者の皆さんにも、「受賞して当然だよね。」と言ってもらえるように中身の充実を図っていきたいと思います。そして、子供たちがタブレットを使いながら、更によりよい学びを求めていきたいと思っておりますので、教育委員の皆さんにもご支援いただければ有難いと思います。

教育総務課長
学校教育課長
社会教育課長
国体推進課長

9月9日から10月7日までの主な行事等について各課長が報告。
併せて、10月8日から11月8日までの行事予定についてお知らせした。

6 閉 会